事前に備えよう　～在宅避難できるように～

岐阜大学地域減災研究センター 村岡治道 特任准教授は地震の備えについて「**地震対策していますか？天気予報で降水確率70%であれば、傘を準備しますよね。地震だとなぜ準備しないのですか。避難所へ行かなくて良い住環境作りが大切です。自分や家族、家を守ることができれば、自宅で避難生活（在宅避難）ができます。在宅避難ができれば、ボランティアとして避難所の運営に回ることができます。事前の備えをしっかりしてください**」と述べられています。

▲講演を行う村岡教授

事前の備えチェックリスト（できるだけ全てにチェックできるようにしましょう）

□家の耐震性の確保ができている
＊昭和56年５月31日以前に着工された木造２階建て以下の一戸建ては無料で耐震診断が受けられます。
建設課　☎64-7112

□家の中の安全対策をしている
家具の転倒防止、ガラスの飛散防止、枕元に安全靴・ホイッスル、家具の配置の工夫（倒れた時に出入口をふさがない・テレビなどがワイヤー等で壁に固定してある＊強い揺れがあると飛んでいきます）など

□家族同士の安否確認方法が決まっている

□非常用の持ち出しバッグを人数分用意している
飲料水、食料品、貴重品（小銭を含む・保険証のコピー）、救急用品（絆創膏・包帯・消毒液・常備薬など）、ヘルメット、マスク、軍手、懐中電灯、防災ラジオ、電池、衣類、下着、タオル、洗面用具、マッチ、カイロ、ウェットティッシュ、レジャーシート、ゴミ袋、雨がっぱ、携帯トイレなど

□災害用備蓄品がある
飲料水（１人１日３ℓを３日分）、非常食（１人３日分）、簡易トイレ・トイレットペーパー、カセットコンロ、防災ラジオ、電池、マッチ、ろうそくなど＊大規模災害時には「１週間分」が望ましい

災害に対するご家庭での備え
https://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/sonae.html

「緊急避難場所」と「避難場所」

災害から命を守るために「自分の命は自分が守る」意識を持ち、災害に応じた適切な避難を行うことが重要です。
新型コロナウイルス感染症が収束しない中でも、危険な場所にいる人は避難してください。
避難先での感染拡大を防止するため、マスクや消毒液などの感染防止対策品をできるだけ持参してください。

緊急避難場所
災害（洪水など）から命を守るために緊急的に避難する施設や場所（公園や集会所など）です。
http://www.town.anpachi.gifu.jp/2014/05/01/安八町避難所マップ/

避難所
避難した居住者等が災害の危険がなくなるまで一定期間滞在する施設です。
http://www.town.anpachi.gifu.jp/2014/05/01/第２次避難場所/
＊避難生活の長期化が想定される場合に、避難所での生活が困難な高齢者・障がい者・乳幼児などの要配慮者が避難所から移り、より良い生活を確保するための福祉避難所を開設します。
福祉避難所は、災害発生後すぐに利用できるものではなく、各施設の被災状況等を確認した上で受け入れが可能な場合に開設します。開設後は、町のホームページ、避難所の掲示板、あんぱちナビ等で公表します。